

## 福島県いわき市の農業の現状を発信する ONLINE 実施報告

(2020年9月27日(日) 12時45分～17時00分実施)

この企画は、新型コロナウイルス感染症の全国的な拡大により中止となった現地活動に代わるものとして、いわき市をとりまく現状について多方面から知ろう、という趣旨で行われたものです。

講師には、オリーブ・コットンの生産者であり、例年、現地での活動を支えてくれている福島氏、松崎氏に加えて、農産物の商品化・流通を担う(株)起点の酒井氏、住民の健康・地場産品の放射能測定に携わっている『いわき放射能市民測定室たらちね』の鈴木氏を講師に迎えて、オンラインで講演会を行った。

現場で活動されている方からの講演であったので、畑づくりから始まる栽培の過程、生産・販売や、放射能測定の細かなプロセスまで理解できる講演会となった。



### 講演内容・講師

#### ①12:45～13:30

(放射能による環境汚染、住民の健康)NPO いわき放射能市民測定室たらちね 鈴木薫氏

#### ②13:30～14:15

(オリーブの栽培・販売) NPO いわきオリーブプロジェクト 松崎康弘氏

#### ③14:30～15:15

(コットン栽培) 柳生菜園 福島裕氏

#### ④15:15～16:00

(コットン製品化・販売) (株)起点 酒井悠太氏

#### ⑤16:00～17:00

質疑応答



参加は 28 名(申込数)、また長時間に及ぶ企画のため、入退室自由という形で行われた。

開催後のアンケートでは

- I have gained a lot of information about Iwaki through this event
- 自分自身の知らない分野が沢山あることを確信しました。だからこそ、もっと自分で情報を得て、動いて行く必要があるなと感じました。
- いろいろな方たちのお話を直接聞ける機会は、とても大切だと感じました。
- 福島は復興しているが、福島以外の人に求めていることは福島のことを忘れないで欲しいということを学んだ。また放射線量について、福島の人はずごくシビアであると感じた。福島産のものを買ったりするということから福島を応援したいと感じた。
- 今回、福島県いわき市の農業の現状について、さまざまな分野の方々が公演をしてくださったが、今の社会問題であるコロナ禍により、困難な状況がうまれているということを実感した。だからこそ、私にできることは何か、深く考えるきっかけになった。私は、将来保育士として働きたいと考えているが、こういった国や各地域における問題に対して、しっかりと自分ごととして考え、園だけでなく、地域のより多くの子どもたちや保護者の方にも、しっかりと自分ごととしてできることは何か、考えてもらえるように、情報を発信し、伝えていきたいと感じた。そして、こうした取り組みを通して、身近な地域のみではなく、県を跨いだ人々のつながりが生まれていけるようにしたいと考える。
- 何かやりたいとは思いますが、まだ漠然としています。まず、現地に赴いて実際にお話を聞いたり作業の手伝いをしたりしたいです。また、このような企画に参加している同年代の人とも話をしたいです。

等のたくさんの感想が寄せられた。